

第二問

次の文章は、淫武天皇『徒然草不可避』第八九三段「しけり」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

(ア) 葉月十六日、辰一刻五分に記す。

昨日葉月十五日、例の年六十なり給ふ浪人の翁と、先づ頃文おこし汚れ好み給ふ年は四十五ばかりの大工の男と、年五十三なる己が三人にて北なる川が土手の下にて盛りあひぬ。

明日は暇あれば酒屋にて酒と肴を求め、人の来難き所なればいみじふ酒飲みて始めたり。三人にて互ひに舐め合ひ、皆衣冠布衣脱ぎて地下足袋のみ履きたれば、持ちあひし無花果をこそ二三ばかりづつ入れ合ひぬれ。暫し後(イ)菊をこづき、にはかに尿が出口を求めくるとなむ転べきたる。翁が菊を舐りつつ男が菊を舐り給ひたれば、男、己が口にいみじふ多く放り給ひぬ。やがて翁放り給ひ、己も放りて、顔中尿にぬるるなりけり。

(ウ) 世の中にたえて御屎なかりせば夏の心はのどけからまし

(エ) またせむと思ふなりけり。大勢にて尿にぬるるは、いみじふあはれなり。我ばかりかく思ふにや、(オ) やがて尿になむぬるるべき。

(カ) 吉備が北にてあふべき人なればいとよし。尿にぬれむと思ひ給へば、(キ) やがて文おこすべし。

〔注〕 ○浪人——浮浪者。

○無花果——いちじく。

○吉備——現在の岡山県。

設問

(一) 傍線部イ・エ・オ・カ・キを現代語訳せよ。

(二) 「葉月十六日、辰一刻五分」(傍線部ア)とあるが、これを現代の暦と二十四時制で正確に記せ。

(三) 「世の中にたえて御屎なかりせば夏の心はのどけからまし」(傍線部ウ)とあるが、この和歌を適切に解釈せよ。

全文訳

八月十六日、七時十五分。

昨日の八月十五日にいつもの浮浪者のおっさん（六十歳）と先日メールくれた汚れ好きの土方のにちゃん（四十歳）とわし（五十三歳）の三人で県北にある川の土手の下で盛りあつたぜ。

今日は明日が休みなんで酒屋で酒とつまみを買ってから滅多に人が来ない所なんで、そこでしこたま酒を飲んでからやりはじめたんや。

三人で舐めあいながら地下足袋だけになり持って来たいちぢくを二本ずつ入れあつた。しばらくしたら、けつの穴がひくひくして来るし、糞が出口を求めて腹の中でぐるぐるしている。浮浪者のおっさんにけつの穴をなめさせながら、兄ちゃんのけつの穴を舐めてたら、先に兄ちゃんがわしの口に糞をドバーっと出して来た。それと同時におっさんもわしも糞を出したんや。もう顔中、糞まみれや。

世の中に御糞がなかったならば、夏の心はどんなにかのどかだったことだろう。

もう一度やりたいて。やはり大勢で糞まみれになると最高やで。早く糞まみれになろうぜ。

岡山の県北であえる奴なら最高や。糞まみれでやりたいやつ、至急、メールくれや。

デ鎌倉時代(893-1919)の代表的な作品『徒然草不可避』からの出題。近年、『デカ枕草子』に並び『徒然草不可避』の出題数が急激に増えている傾向にあるので十分注意されたい。

この作品は段数・章数が比較的少なく、高校によつては授業等を通して全ての章段を扱っている可能性も少ない。それは大いに結構なことであるが、一度もこの作品を目にしたことがなかった受験生であっても、この文章の正確な訳出と問題への解答はさほど難しいものではなかったことであろう。本番の試験を目前に控えているにも関わらずこの程度の文章すら碌に訳出できないというのは、大変嘆かわしい事態である。

なお、「放る」は「まる」と読み、「大便をする」の意味。「屎」は「くそ」と読み、当然ながら「大便」の意であることに十分留意されたい。『デカ枕草子』八一〇段「田所、木村の放りたる事」で「放る」という表現を聞いたことのある受験生は少なくなかったのではないだろうか。

問一……比較的平易な出題。

「菊をこづき、にはかに屎が出口を求めくるくるとなむ転べきたる」は「菊をこづき」に注意。「ひくひくする」という意の「をこづく」という動詞を知っているかどうかが鍵となる。現代語訳の通り、「けつの穴がひく

ひくして来るし、糞が出口を求めて腹の中でぐるぐるしている」と書ければ満点。

「またせむと思ふなりけり」は、「なりけり」が詠嘆的表現であることに留意されたい。有名な表現でもあるが、「もう一度やりたいぜ」が正答である。

「やがて尿になむぬるべき」という表現も有名であろう。参考書等によつて記述に多少の揺れはあれど、「早く糞まみれになろうぜ」という大筋の意に相違はない。なお、写本によっては「あなや、やがて尿になむぬるべき」という表記になっているものもあり、こちらの場合は「ああ、早く糞まみれになろうぜ」という詠嘆の意を付加しなければならないことは明らかである。

「吉備が北にてあふべき人なればいとよし」においては、「よし」という語が優劣比較の最上位にあることに注意。良い順に「よし」「よろし」「わろし」「あし」となる、というのは中学生でも知っていることだろう。現代語訳は明らかに「岡山の県北である奴なら最高や」となる。

最後の「やがて文おこすべし」では、古文読解の上では基礎知識となる「やがて」の訳出、及び「やる」「おこす」の関係が明らかになっているかどうかのポイントとなる。「やがて」は「すぐに」ひいては「至急」、「おこす」は「相手から自分へ」という関係性より「ください」という意となれば良いだろう。「至急、メールくれや。」という訳ならば間違いなく満点である。

問二……知識重視の設問。

葉月は八月、辰一刻は七時、五分は十五分。

「八月十六日、七時十五分」という解答が最も適している。

別種の写本では精訳すると「八月十六日水曜日、七時十四分二十二秒」となっているものがあるが、あくまで問題文となっているものからの出題であることに留意されたい。

問三……やや応用的な設問。

和歌を字面通り現代語訳すれば、「世の中に御糞がなかったならば、夏の心はどんなにかのどかだったことだろう。」となる。しかしながら、この文全体として「御糞」に対する立場はどうであろうか？

この文章全体では、「御糞」を仲立ちとして作者と二人の男の交歓、そして次なる関係の示唆さえもなされているのである。ここまで「御糞」を扱っている文章で、まさか「御糞」をただの汚いもの、不浄なもの、あつてはならないものと断じているというのは天地がひっくり返らない限り有り得ない話であろう。

解釈としては、「世の中に御糞がなかったならば、夏の心はどんなにかのどかだったことだろうか。人の心をこれほどまでに突き動かす御糞というものは、何とも素晴らしいものである」という内容が適切である。勿論、御糞に対する賛意がなければ零点となることは言うまでもない。